

公民館月報

K O M I N K A N G E P P O



特集

どこでもライブラリー「みんなの本だな」の取組み
～身近に本のある生活・みんなが図書委員です～

4.5

- 2 トピックス 第31回全国公民館研究集会（高知大会）開催
- 3 視点 私の子どもから私たちの子どもたちへ
- 3 ひろば 山は楽し！
- 6 実践記録シリーズ 青少年指導者養成事業「いきいき体験学」
- 7 サークル交流 和・洋協演で交流の輪（十日町市）／個性豊かな陶芸サークル（出雲崎町）
- 7 素顔拝見 桑原 浩志さん（長岡市）／石添 正人さん（新潟市岩室地区）



「なかよしランド大運動会」
十日町市

表紙解説

こども達の成長を日々感じながら、楽しく活動しています。なかよしランドも今年で20周年を迎え、記念大運動会を行いました。親子、スタッフ、みんなで和気あいあいと楽しい1日を過ごしました！

第31回全国公民館研究集会(高知大会)開催

地域の「住民力」で創造する 輝く未来

去る11月6日(木)、7日(金)の二日間にわたり、高知市の高知県立県民文化ホールを主会場に、千六百人を超える参加者を得て、第31回全国公民館研究集会が開催された。

「近年急速に進む核家族化や、価値観の多様化による社会情勢の変化に伴う人間関係の希薄化等により住民参加の場であるコミュニティが衰退しつつある。」

このような社会状況の中、公民館は地域コミュニティの拠点として地域住民と協働・参画の視点に立った運営が求められるとともに、地域住民や地域社会の今日的な要望や期待に応えることが強く求められている。そのために、公民館は地域の『住民力』を結集して、新しい時代や輝く未来を創造することが大切である。

右記の開催趣旨に基づき、今回のテーマを、「地域の「住民力」で創造する 輝く未来」とし、一日目は全体会、二日目は分科会(全8分科会)が行われた。

全体会開会式では、鹿熊久三全公連会長、文部科学省生涯学習政策局長、



鹿熊久三会長

高知県知事、高知市長のあいさつの後、第31回全国公民館研究集会アピール文が提案され満場一致で承認された。

引き続き

て、文科省生涯学習政策局社会教育課地域・学校支援推進室佐藤弘毅室長から、文部科学省施策説明が行われた。

記念講演は、「生き方雑記帖」と題して、高知市出身の直木賞作家山本一力氏の講演で、今後の公民館のあり方等にもふれる意義深い内容で、感銘を受けた。

分科会では、第8分科会「地域づくり」に参加した。「結いの心で築く平和



講師 山本一力氏

第31回全国公民館研究集会アピール文

平成18年12月、教育基本法が60年ぶりに改正され、それを受け平成20年6月には、社会教育法の一部改正が行われました。今年度は、こうした国の社会教育法の改正をふまえ、私たちにとっては「新しい公民館活動展開元年」と位置づける年になります。一方、全国各地の公民館を取り巻く状況は、近年目まぐるしく変化し、ますます厳しさを増して来ています。全国の自治体の中には、公民館の職員や経費の削減を主目的とした管理運営の変更が行われ、またその検討も進められております。そこで私たちにとっては、社会全体・地域全体から公民館への期待や信頼が、さらに高まるよう努めていくことが緊急の課題となっています。今、公民館には、個人の学習への要望の充足だけに止まらず、社会の要請に敏感に対応する姿勢や力量が、併せ求められているのです。それは、持続可能な豊かな社会の継承と創造であり、とかく希薄化しがちな地域の人々の心の絆をさらに強め、温もりある地域社会創設への貢献です。私たちは、これらの難しい諸課題を、常にプラス思考で前向きにとらえ、一人ひとりが、自己の能力を存分に磨き、研ぎ澄まして、公民館を拠点とした地域の振興発展のために、今後一層努力することを誓って、次の事項をアピールします。

- 1 私たち公民館職員は、それぞれの仕事ぶりで、地域社会の期待と信頼に応えます。**
 - (1) 地域課題を的確にとらえ、元気あふれる公民館活動の展開に努めます。
 - (2) 自らの職責の自覚と研鑽により、人々との絆を強め、地域との連携・ネットワークの再構築に努めます。
- 2 私たち都道府県公民館連合会は、互いの連携と協力により、地域社会の期待と信頼に応えます。**
 - (1) 公民館職員の力量を高めるため、実践的で有意義な研修の機会を確保します。
 - (2) 公民館活動が、より活性化されるよう情報交換・情報発信を密にします。
- 3 私たち全国公民館連合会は、未来を拓く公民館の振興発展に寄与し、全国の公民館からの期待と信頼に応えます。**
 - (1) 全国組織の利点を生かし、あらゆる場所で、公民館の必要性・重要性を強く訴え、世論を喚起します。
 - (2) 国の社会教育関係情報や各地域の特色ある公民館活動情報を積極的に収集・発信すると共に、これからの公民館活動に資する研修の充実や有益な資料等の提供に努めます。

平成20年11月6日
第31回全国公民館研究集会

で豊かな安全な地域づくり」沖縄県石垣市の大浜自治公民館大島正光館長、「まちづくり」に活かす公民館活動」高知市春野公民館芳原分館坂本隆茂分館長の実践発表・質疑・討議(パネルディスカッション・助言・まとめ)が行われた。それぞれ、地域の課題等に配慮しながら、特色のある実践に取り組んでいる様子が紹介された。

来年度は、10月15日(木)・16日(金)に、「社会教育法制定60周年記念全国公民館研修大会」とし、東京国際フォーラムを会場に、全国公民館研修大会が開催される予定である。



第8分科会「地域づくり」

(相澤記)

視点

私の子どもから 私たちの子どもたちへ



上越おやこ劇場 磯貝千恵子

現代人は今、かつてない程難しい子育てを強いられています。男女雇用機会均等法が施行され、両親共働きで経済的に余裕のある中で育ち、多様な価値観と教育を身に付けてきた親たち。

子ども時代を習い事と塾通いで過ごして来た世代は、その事に何の疑問も持たずに幼少時から塾と習い事を子育ての中心におく人も多いです。

元来子ども達は地域の中の異年齢集団の中で「遊ぶ」事で五感を発達させ人間関係を学び、「家の手伝い」をする事で自分の存在を確かめ、生

きる喜びと社会的ルールを学んできたのだと思います。しかしそれが崩れ去り、教育があっても他人をおとしめられる事が平気な人が増えてしまっただのはとても悲しい事です。

おやこ劇場では、生の舞台芸術を鑑賞することで感性を育て、大人も子どもも企画や運営に携わることで役に立つ喜びを知り、異年齢の子ども集団が遊びを通じて育ち合う場を大切にしています。信頼と安心の中で育ち合える関係が、広がる事を願いながら。

HOT NEWS


掲 示 板

平成20年度 第1回自主財源確立のための 調査検討委員会開催

◇期 日 平成20年11月20日(木) 13:30~14:45
◇会 場 新潟市生涯学習センター303講座室
出席者:委員5名、事務局3名 計8名

◇内 容 (概要)

- (1)平成20年度収入支出決算見込みについて
※提案通り承認
- (2)平成21年度県公連市町村負担金について
※提案通り承認
- (3)平成21年度社会教育団体補助金(新潟県)について
※県生涯学習推進課へ出向いてお願いする
※上越地区の研修会開催についての確認
(上・中・下各地区での研修会開催を推進する)
- (4)自主財源確立のための具体的な手立てについて
 - ①収入面で
 - ・協賛広告の取得検討
(エコ、障がい者雇用、環境等の社会貢献活動に取り組んでいる企業等)
 - ・月報購読の促進
 - ②支出面で
 - ・現在の取組の継続
 - ③その他



自主財源確立のための調査検討委員会委員 (敬称略)

| | | |
|-------|-------|------------|
| 委員 長 | 近藤 敬 | 新潟市中央公民館長 |
| 副委員 長 | 佐藤 俊夫 | 加茂市公民館長 |
| 委 員 | 丸山 仁 | 新潟県市長会事務局長 |
| 委 員 | 伊藤 英策 | 新発田市中央公民館長 |
| 委 員 | 宗村 里士 | 三条市中央公民館長 |
| 委 員 | 渡辺 辰夫 | 糸魚川市中央公民館長 |

八月中旬、燕岳へのお誘いをいただき、渡りに船で快諾。

二千七百六十三mの燕岳を息子同伴で目指した。

出発の朝は、やはり雨！朝七時三十分暗雲立ち込める中、中房温泉を出発。日本三大急登の一つ、燕岳の登山道への挑戦。

第一、第二ベンチと階段状の道が、上の上に続く中、息を切らし、汗だくで十時頃合戦小屋へ到着。そこで、昔からの名物の大きなスイカで喉を潤し、一気に元氣回復！

八合目辺りから、ヨツバシオガマ、ウサギギク、シナノキンバイの高山植物が登場。徐々に、雲が青空に変わる。紫のトリカブトが陽に輝く。

午後一時、燕山荘へ到着。突然の真つ青な世界へ！。雲上で、山菜うどんを食



し、花崗岩を踏んで山頂に立つ。

山頂からの眺望は、立ち尽くす程の絶景。真つ青な空に、立山連峰と表銀座の縦走路、天を突く槍ヶ岳、大天井岳から常念岳への縦走路。登山道沿いの白砂の上に、ピンクのコマクサの群落。雨と背中合わせの山行が、感性を充電した。

登山は、人生に例えられることがある。その登山では、下山が大切。私も、下山に際しては、一步一步踏みしめていきたい。山は、楽し！。

ひろば

山は楽し！

出雲崎町公民館運営審議会委員 吉田 一郎



「みんなの本だな」の取組み

みんなが図書委員です～

ンフレットを作り、地元の新聞や市のホームページ、広報でPRし、家庭に眠っている絵本、小説、実用書などの提供を呼びかけました。

すると、市内をはじめ上越出身の県外の方からもポツポツと本を提供していただくようになりました。また、高齢者の方や大量の本や本棚を提供していただく場合は、職員で受け取りに伺ったり、本棚の設置に協力してくださる所に本が無ければ、職員がダンボールに本をつめ、伺うことになりました。

チームは現在9人で活動しています。メンバーは、公民館職員である私のほか、学校教育課指導主事、図書館司書、水族博物館副館長、社会教育指導員、区分室職員など、普段は離れた部署で別々の仕事をしている職員です。

年々職員が削減され、業務多忙の中、職場上司、同僚の理解を得て「みんなの本だな」へ費やす時間を生み出し事業を展開しています。



スーパーのキッズコーナーに本だな

チームの中に図書館司書がいるのも、とても心強いです。各々の職場での経験、知識、人のつながりを生かして取り組むことができる「連携の力」を感じます。

そして、特に付け加えたい話・・・「みんなの本だな」の設置にすぐに協力、理解を示してくれたのは地域の公民館分館の協力員です。すでに図書コーナーのある公民館の協力員も「みんなの本だな」の看板を付け、本にシールを貼りました。

この取組みを始めたことで、協力員の読書に対する意識が高まり、地域に本の提供を呼びかけたり、公民館同士で本の入れ替えを行ったりもしています。このことが、読書推進の活発化にとっても大きな力となっています。

4 今後の課題、展望

取組みを始めて1年数ヶ月。「みんなの本だな」は現在62箇所になりました。内訳は公的施設（市役所、公民館、幼稚園、学校、入浴施設など）が44箇所が一番多く、診療所や救護施設に5箇所。商店や事業所、民宿、銀行などに13箇所です。

左の写真は、あるスーパーに「みんなの本だな」を設置したときのものです。本を並べていると、すぐに買い物に来た小さな子どもが様子を見にきました。お母さんと一緒に本を手にとりて見られました。また和菓子屋さんにあった小さな本棚を見て「うちにも置きたい」と近くの薬屋さんが設置してくれました。じわじわと設置数が増えてくるにつれ、市民への認知度も高まってきているように感じます。

また、今年8月には、市教育プラザの倉庫に保管してある大量の本の修復作業を行いました。地域の読み聞かせサークルや、高校にボランティアを呼びかけたところ、5日間で延べ69人の方に協力していただきました。作業の後、「楽しかった」「また作業があれば参加したい」など前向きな意見をいただいたので、今後の取組みに、ボランティアの力をどう生かしていくのが課題です。

この取組みは、まだ始まったばかりです。今後は本の提供を呼びかけながら設置数を増やしていきたい、より身近に本のある生活を推進していきたいと考えています。

例えば、ひとつの商店街のあちらこちらの店先に小さな本棚があって、本を手にする買い物客がいる風景・・・一冊の本がいろんな人の間を旅している様子を夢見て、語りあいながら、私たちは地域の皆さんとともにこの活動を盛り上げていきたいです。



特集



上越市教育委員会
公民館主任 **小池 和美**
(市総合教育プラン推進プロジェクト
読書チーム代表)

1 はじめに

上越市教育委員会は、市町村合併後の新しい市の教育・学習活動の指針となる、総合教育プランを平成18年度に策定しました。このプランの重点施策を具体化しようと、「総合教育プラン推進プロジェクトチーム」が発足したのが、平成19年8月のことでした。

このプロジェクトチームは、リーダーを教育部長とし、教育委員会本庁各課と13区分室の職員で構成され、さらに3つのチームに分かれて、プランの具体化のために、知恵を出し合いながら取組みをすすめています。

このプランの重点施策の一つとされている「身近に読書のある生活環境の整備」を推進することが私たち「読書チーム」の役割です。プランの内容についてはここではふれませんが、関心のある方は上越市のホームページをご覧ください。



和菓子屋さんの店先に本だな

2 「みんなの本だな」の誕生

赤ちゃんから高齢者まで、本に親しむことができるように・・・、上越市では、市立図書館、学校図書館をはじめ、さまざまな機関や地域の団体により読書推進のための施策、活動が取り組まれ

どこでもライブラリー

～身近に本のある生活～

ています。

その上で、私達読書チームは、何に取り組んでいったらいいのか・・・じっくり話し合いました。その中で具体的になってきたのが、「もっと気軽に読書に親しめるように、いろんな所に本棚があったらいい」ということでした。

すでにその時、市教育プラザで、学校教育課副課長（教育プラン担当）が、来館された方や職員が自由に利用できる本棚をモデル的に設置されていたので、私達はこの取組みを全市に広げるためのマニュアル作りに取り組むことにしました。

名づけて・・・「どこでもライブラリーみんなの本だな」プロジェクト・・・概要は下記のとおりです。

- ①目的 公的施設や民間事業所等に本棚を設置し、市民が気軽に本を手にとって読む習慣を上越市全体に広げる。
- ②方法 協力を申し出てくださった市民の方が、自事業所や自施設に本棚を設置し、市民から提供された本を並べる。また、本には図書館や学校の本と区別するために、下記のシールを背表紙に貼る。



- ③利用 気軽に利用・設置できるように。
 - ・閲覧、貸出ともに自由。
 - ・何冊、何日でも借りることができる。
 - ・貸出簿は設けない。
 - ・借りた場所に返してもらおう。
 - ・利用する皆さんから本棚の整理に協力してもらおう。(みんなが図書委員です)

3 広がりをみせてきた活動

マニュアル作りの後は、市民にお知らせするパ

実践記録

129

シリーズ

青少年指導者養成事業「いきいき体験学」

新潟県立青少年研修センター 研修課 社会教育主事 清水 秀樹

1. はじめに

新潟県立青少年研修センターは、新潟市西南部につらなる小高い丘の上に位置しています。小学校の自然学校から一般企業の研修まで、幅広い方々に利用されている施設です。団体ごとに研修を行う受入事業の他に、個人や家族を対象にした様々な主催事業も行っていきます。青少年指導者養成事業は、講師を招いて県下に広く参加者を募集する、当施設の中核的な事業のひとつです。

2. 内容

体験的に学ぶことが重要視され、また体験活動の促進など教育現場の流れを受けて、青少年指導者の指導力向上、体験学習への理解を深める目的で行っています。今年度は、募集対象を青少年指導者と18歳以上の青年とし、各回とも30名を定員として、3回の実施を計画しました。

1回目は、人間関係づくりのため、アドベンチャー教育についての研修を計画しました。アドベンチャー教育は、様々な冒険活動を行う過程で自己と向き合い、仲間との対立や協力などを経験しながら信頼関係を学ぶことを目的としています。短時間のゲームの中にも、一人ひとりが自ら行動できるよう学習していく仕組みを取り入れているので、学校の先生はもちろん、青少年に関わる全ての方に役立つと考えています。

2回目は、環境教育の指導者を養成する研修を計画しました。様々なアクティビティを通して、楽しくかつ科学的に環境学習ができるプログラムを体験し、指導者となることを目指す内容としました。環境学習を体験的に行うことにより、子どもたちは楽しく理解することができ、責任ある行動へと結びつけることができると考えています。

「いきいき体験学」は3カ年計画で実施した主催事業であり、今回はその最後の年にあたります。そのため、今年度の第3回目「企画力向上編」はこれまでのまとめとしての意味も持たせたいと考え、指導者としてどのようにプログラムを作っていくか、人の集まるプログラムには何が必要かという視点で研修を行いました。

3. 「企画力向上編」研修レポート

まず、実際に研修生が当施設の自然環境を使ったプログラムを体験することから始めました。フィルムケースに自然のものを入れて、その中身を考える活動。鏡を持って、鏡に映る上方の風景を感じる活動。自然環境の中から二色を選び、その色の重なりを言葉で表現する活動など、私たちが普段見ているものを様々な角度から見ることのできる内容でした。

次に、日頃関わっている対象者別にグループを編成し、対象者の理解を深めました。その後、はじめに体験したプログラムをそれぞれの対象者に適する形に作りかえ、研修生自らが指導者の立場を経験するというように展開しました。

同じプログラムでも、対象者に応じて工夫すると全く違うものなることに気づかされ、指導者は対象者のことをしっかり把握しなければならないのだと再確認することができました。

参加者は公民館勤務の方や学校の先生など、職業、年齢ともに幅広く、グループごとの活動では様々な意見が出されるなど、たいへん活気がありました。

4. 最後に

新しい学習指導要領では自然体験活動の重要性がうたわれています。当施設でも小学校自然体験活動指導者養成研修を実施しました。体験活動の指導をするためには、まず指導者自身が体験することが大事だと思います。また、よりよい企画を立案するためには、指導者相互の交流も大きなヒントになるのではないのでしょうか。指導者の一助になり、「研修センターでいいおみやげをもらった」と言ってもらえるような事業でありたいと思います。

来年度は、今年実施できなかった第1回と第2回の研修を充実させて、参加者の方にさらに満足していただけるような内容で実施する予定です。多くの皆様の参加をお待ちしています。



フィルムケースの中身は？



自然の中で新たな発見が！

| 回 | 日程 | サブタイトル | 内容 |
|---|----------------------------|--------------|-------------------------------|
| 1 | 5月17日(土)～18日(日) 工事のため中止 | 「アドベンチャー教育編」 | 体験学習の手法を用いたアドベンチャー教育の方法を学ぶ。 |
| 2 | 7月12日(土)～13日(日) 工事のため中止 | 「環境教育指導者養成編」 | さまざまなアクティビティを用いる環境教育プログラムを学ぶ。 |
| 3 | 9月20日(土)～21日(日) | 「企画力向上編」 | 参加者が集まる企画を立案し、指導する力の向上を図る。 |

※今年度は施設内のアスベスト除去工事のため、第1、2回の開催を中止し、第3回のみ開催となりました。

和・洋協演で交流の輪

双葉会

日本古来の楽器とその伝統音楽に魅せられ、二十五年前に発足。和楽器演奏の素晴らしさを!!との願いで練習を重ね、四半世紀となりました。

会員も老若男女入り混じった和やかなグループで、月三回の公民館での練習が楽しみです。また、会独自の演奏会をはじめ「市民音楽祭」「雪まつり」等各種イベントに積極的に参加し、会員のレベルアップを図っております。

これからも箏(こ)だけでなく、三弦、尺八、洋楽器を組み入



れ、多くの方との交流が出来れば良いと思っております。

この秋は記念演奏会も出来、邦楽を幅広く知ってもらい、日頃の成果を出したいと思っております。これからも合奏する楽しみと、仲間づくりを続けていきます。

十日町市・双葉会

滝沢 ヨウコ 記



個性豊かな

陶芸サークル

出雲崎町陶芸サークル

私達、陶芸サークルは、町公民館活動の一部会として、現在、会員八名で、活動日は毎週土曜日の終日です。

月一回、先生の指導日が待



ち遠しく、和気あいあいと創作に取り組んで居ります。

陶芸は、一連の作業スパンが長いことで、成形、乾燥、素焼き、色付、本焼き等。

最後の作業の本焼きは、早朝から夕方迄、十時間以上窯番をするので、なかなか家庭との両立が、難儀な時もあります。

各々、個性溢れる作風で、正に「世界に一つ」の宝物。

作品は、生涯学習の発表会に出品し、恥ずかしさと嬉しさでホットして、一年を締めくくる時でもあります。

出雲崎町陶芸サークル

外山 紀世 記

春は成人式に始まり、少年から高齢者までの講座の企画運営、文化展の開催、郷土資料館や自然公園の管理など、毎日あちこちを駆け回っています。

子どもたちからお年寄りまで、あるときはお兄さん、あるときは孫のように「桑原さん」や「ひろし」と呼ばれ、みんなから慕われ、頼りにされている存在です。



長岡市越路公民館

主事 桑原 浩志さん

仕事を離れると少年野球のコーチの顔も持っていて、そろそろ彼女をというみんなの心配をよそに、シーズン中の休日は子どもたちの指導に追われています。

とにかく何事にも一生懸命な桑原さんは、越路公民館に無くてはならない存在です。

(長岡市教育委員会越路分室社会教育指導員 丸山 京子 記)

物腰のやわらかさと優しい口調は親ゆずりか、はたまた可愛い奥様のキツイ指導か、そんな彼が4月の異動で岩室地区公民館に配属になった石添正人君です。出勤はまず先輩とゴミ袋を片手に施設周辺のゴミ拾いから(これは公民館の伝統)。当公民館は、体育館や野球場を併設し、外に運動広場、テニスコートを有し、その管理とスポーツ関連行事を主に担当しているのが石添君です。



新潟市岩室地区公民館

主査 石添 正人さん

自称「雨男」で屋外行事は苦手と言うだけあって、最初の主催事業「親子ソフトボール大会」が予備日を含めてお天道様に見放されること面目躍如か。こんなことではと一念発起?秋の体育祭では雨無しで全日程を終了。今は雨男も返上し今後の活躍が期待されるまだまだ若手のエースです。昨今は合併建設計画の施設改修事業と愛妻と愛娘のために料理教室に奮闘中!! (新潟市岩室地区公民館 伊藤 記)

素顔拝見

event information

平成20年度 第2回関東甲信越静公民館連絡協議会 理事会・研修会開催

◇期 日 平成20年11月14日(金) 11:00~15:00
◇会 場 東京八重洲ホール 会議室411
◇次 第

- 1 開会あいさつ 関プロ公連 朱勝寺会長
全公連 石川事務局長
- 2 研修会 (講演)
テーマ 「改正社会教育法と公民館の今後について」
講 師 文部科学省生涯学習局社会教育課
社会教育地域・学校支援推進室室長 佐藤弘毅 様
[抜粋]: 詳細は文部科学省のホームページに掲載
(1)社会教育施設の運営能力の向上 (第32条に関して)
(2)教育振興基本計画について
基本的考え方
①「横」の連携: 教育に対する社会全体の連携の強化
②「縦」の接続: 一貫した理念に基づく生涯学習社会の実現
施策の基本的方向 (1~4)
基本的方向ごとの施策 (1の④)
④いつでもどこでも学べる環境をつくる
・公民館等の活用を通じた地域の学習拠点づくり
・人権教育の推進、社会的課題に対応するための学習機会の提供の推進
- 3 理事会
(1)議事
①第49回関プロ公民館研究大会 (千葉大会) の反省
※準備から開催当日まで、円滑に実施でき、成果の挙がった大会であった。
②第50回関プロ公民館研究大会 (山梨大会) について (予定)
※期日: 平成21年8月27日(木) ~ 28日(金)
会場: 山梨県富士河口湖町 河口湖ステラシアター(全体会)
③社会教育法制定60周年記念全国公民館研修会について
(2)情報交換
(3)その他
- 4 閉会あいさつ 関プロ公連 朱勝寺会長

恵贈資料紹介

文芸しばた運営委員会 新発田市中央公民館



新発田市民から統合文芸誌として親しまれている「文芸しばた」第34号をお贈りいただきました。市民の文芸活動の発表と鑑賞の場として、昭和50年に創刊され、今年で34号の発刊というこ

とです。長年にわたる新発田市民の方々の文芸への情熱と、創作活動への熱心な取組の成果がまとめられています。八十歳を超えた方々からの投稿も多く、また、毎年投稿される方も大変多くおられるということです。若くは世代の投稿者がなかなか増えないことが課題でもあるようです。そのため、新発田市の公民館では、合併前町村時代の文芸誌に寄稿されていた方々や高校生、大学生にも広く募集のPR活動を行っています。

今回は、詩(11名)、短歌(53名)、俳句(36名)、川柳(20名)、随筆(28名)、小説(4名)の各部門を合わせて百五十二人の方々が寄稿され、二百十八ページの読み応えのある内容です。また、文芸作品とともに、表紙絵のほか、多数の挿絵も彩りを添えています。A5判 二百十八ページ 一冊1000円(残部あり) [問い合わせ先] 新発田市中央町5・8・47 電話0254・22・8516

未来に残そう美しい山村

山村地域は、食料の生産、水源のかん養、災害の防止、空気の浄化、心のやすらぎの提供など様々な役割を果たし、国民の生命と生活・財産を守っています。

全国山村振興連盟新潟県支部
支部長(津南町長) 小林 三喜男

新潟市中央区新光町4-1 新潟県自治会館内
TEL 025(285)0041 FAX 025(285)1609

◆新潟県内の山村市町村(振興山村:17市町村)
新潟市、上越市、三条市、柏崎市、加茂市、十日町市、村上市、糸魚川市、妙高市、五泉市、魚沼市、南魚沼市、胎内市、阿賀町、川口町、湯沢町、関川村

県公連の「自主財源確立のための検討委員会」が開催されました。厳しい財政

事情を考えると、新潟県公民館月報の購読拡大とともに、協賛広告の取得の検討等が今後の課題になります。